

東海道五十三次 27 番目の宿場

2026(令和8)年6月25日
袋井市長定例記者会見資料
企画部 総合政策課

令和7年国勢調査の結果【速報値】

～袋井市の人口は86,597人で、人口減少率の低さは県内23市で1位～

- ◇1920(大正9)年に第1回国勢調査が開始され、袋井市の人口は1940(昭和15)年の調査以降は増加し続けてきましたが、このたび5月29日に総務省から公表された「令和7年国勢調査(2025(令和7)年10月1日現在)速報値」において86,597人となり、前回調査(2020(令和2)年)調査値と比べ1,267人減少(1.4%減少)し、人口減少局面を迎えました。
- ◇静岡県内35市町すべてにおいて人口が減少する中、本市は人口減少数と人口減少率ともに県内23市の中では最も低い結果となりました(県内35市町では2位)。

【概要】

1. 基準日：2025年(令和7年)10月1日

2. 人口動態の分析について

(1) 出生数の減少などによる自然減の影響に伴う人口減少に歯止めがからない状態が続いており、静岡県内全域で人口減少傾向にある中、本市でも1940(昭和15)年実施の第5回国勢調査以来となる人口減少となった。→ [次ページ グラフ「袋井市の人口と人口増減率の推移\(1920\(大正9\)年～2025\(令和7\)年\)参照](#)

(2) なお、本市の人口は県内他市町と比較して人口減少率が低い状況であったが、本市の地方創生に係る人口動態(令和8年4月1日時点)の分析によると、外国人は転入超過による増加傾向がみられる反面、日本人は自然減などによる減少傾向がみられるなど、外国人の増加によるところが大きいと考えられる。(袋井市住民基本台帳人口からの算出数値)

(3) 外国人の転入超過の要因については、2019(令和元)年度に創設された「特定技能制度」により、東南アジアからの就労資格による労働者が増加していることが影響しているものと考えられる。

→ [《次ページ グラフ「袋井市の外国人人口と外国人比率の推移\(2005\(平成17\)年～2025\(令和7\)年\)参照](#)

(4) 袋井市の世帯数は35,669世帯となり、5年間で1,597世帯(4.7%)増加しているが、1世帯当たりの世帯員人数は2.4人と前回の2.6人から減少しており、核家族化が進行している。

→ [《次ページ グラフ「袋井市の世帯数と1世帯当たりの人員の推移\(2005\(平成17\)年～2025\(令和7\)年\)参照](#)

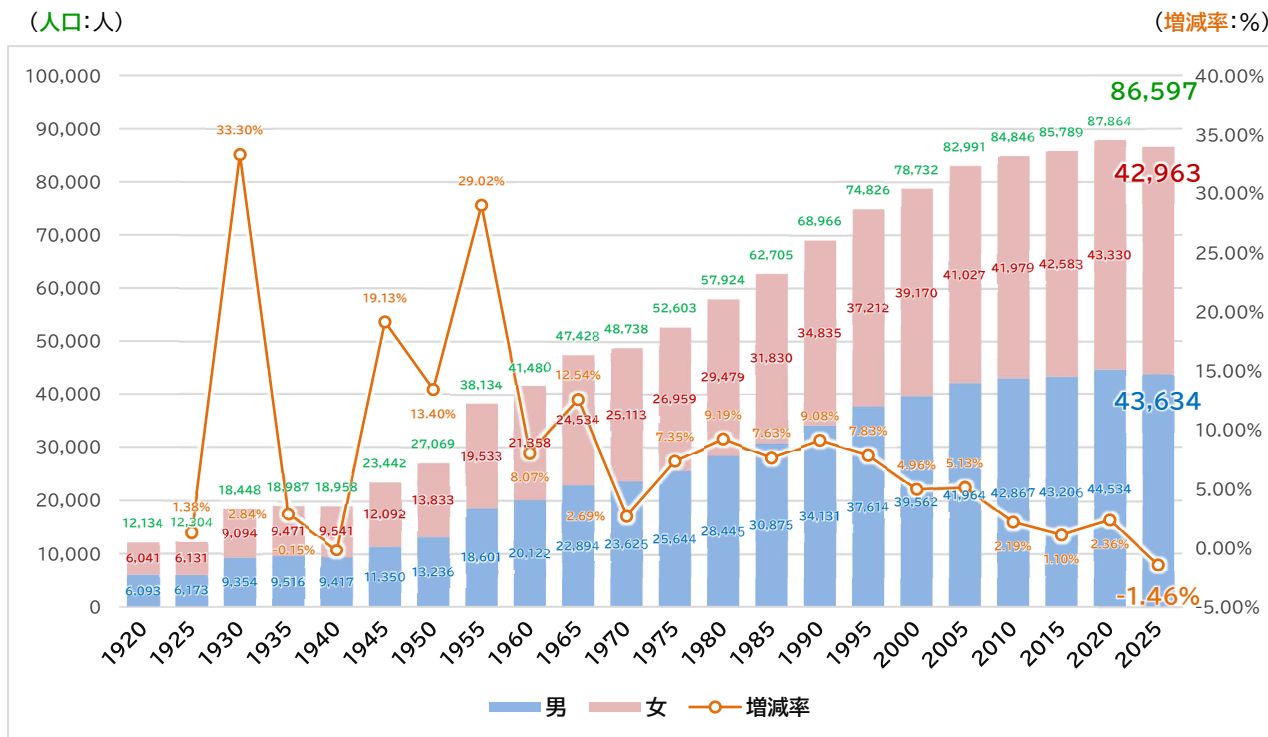
(5) 特に、第2期 袋井版総合戦略(2020(令和2)年度～2025(令和7)年度)では、人口減少の「抑制戦略」と市民が快適に暮らし続けられるための「適応戦略」として、① ひとづくり・② しごとづくり・③ まちづくりの3つの挑戦を掲げ、『誰もが活躍するまちづくりへの挑戦』に向け取り組んできた。

今後のまちづくりにおいても、若者世代の多いまちとしての優位性をさらに高め、「にぎわい ずっと続くまち ふくろい」の実現に向け、こども交流館「あそびの杜」の整備をはじめ、都市計画道路 森町袋井インター通り線の整備や「Fukuroi Central Park構想」の推進などにより、魅力あるまちづくりを推進していく。

【お問い合わせ先】 袋井市 企画部 総合政策課 企画調整係(担当:鈴木)

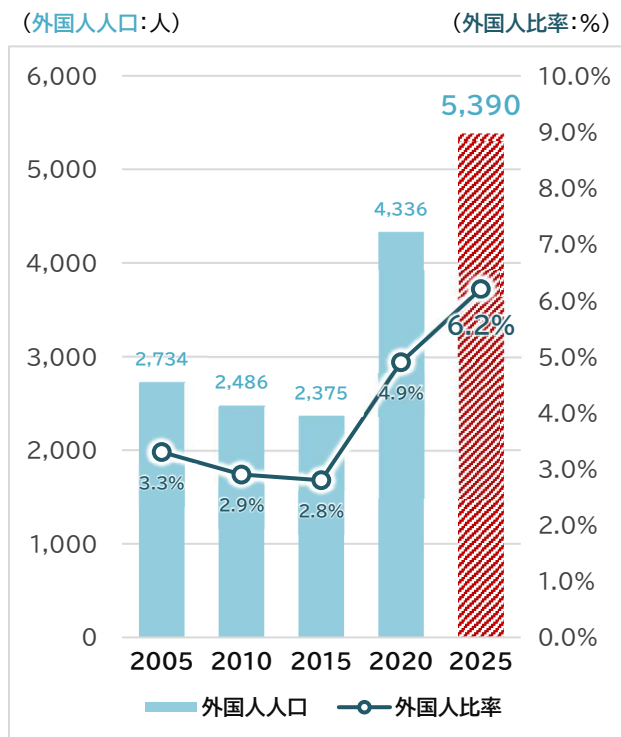
電話:0538-44-3105 FAX:0538-44-3150 メール:kikaku@city.fukuroi.shizuoka.jp

◇グラフ「袋井市の人口と人口増減率の推移(1920(大正9)年～2025(令和7)年)」

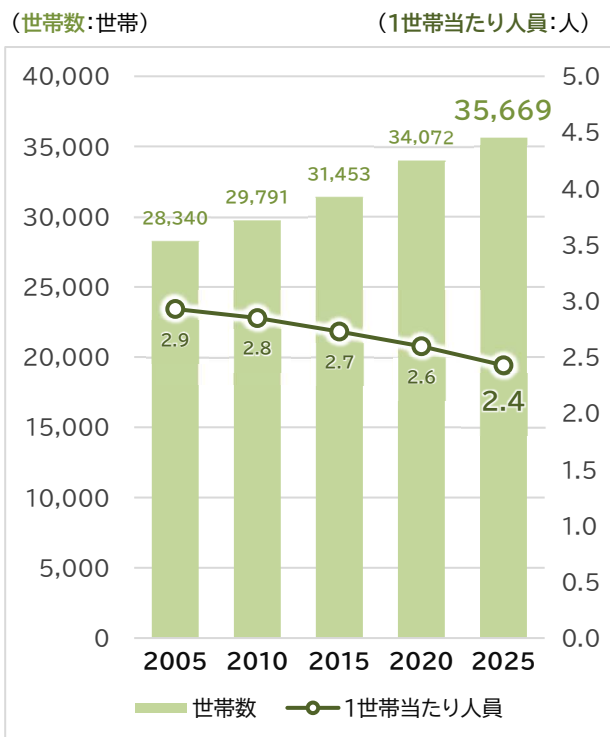


《出展：袋井市「令和2年国勢調査 概要」、総務省「令和7年国勢調査 速報集計」》

◇グラフ「袋井市の外国人人口と外国人比率の推移(2005(平成17)年～2025(令和7)年)」



◇グラフ「袋井市の世帯数と1世帯当たりの人員の推移(2005(平成17)年～2025(令和7)年)」



《出展：袋井市「令和2年国勢調査 概要」、総務省「令和7年国勢調査 速報集計」》

※2025年の外国人人口・外国人比率は、令和2年国勢調査の外国人人口や住民基本台帳に基づく増減を加味した推計値です。